



114
A2336



改正議定書

厚シスルハ經濟ノ要件其切鐵道ヨリ大ナル
無シ方今其線路ヲシテ全國ニ蔓布セシメ
テラ庶幾ス然レ之レヲ創造建設スル經費小
々ニ非ルナリ今関西鐵道會社ヲ設立シ募金
以テ其費途ニ供セント欲ス因テ鐵道建築ノ
許可ヲ得テ茲ニ條件ヲ議定スル左ノ如シ

第一

鐵道ノ建築ヲ會社ヨリ願請シ或ハ政府ヨ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大鐵道省

リ令シテ建築スルモ會社ノ募金ヲ以テ其費用トスルハ其金ノ出納ハ大蔵省ニテ管轄シ其建築ハ工部省ノ所轄タルヘキ事

第二

鐵道建築ハ先ツ其線路ヲ部分シ各部毎ニ先ツ工部省ニテ建築起業規定ニ據リ某地ヨリ某地迄測量繪圖并建築入費總積リ及ヒ建築起業ヨリ卒業ニ至ルマテノ年月ヲ豫定シ其費用ノ事ハ大蔵省ヨリ會社、下達シ會社領承スルトキハ右總積リ高當

何年何月ヨリ後何年何月マテ募集シ同省

ハ可差出因テ現今施行スル所ノ第一部ノ

鐵道ハ即チ大阪ヨリ西京マテ長サ英法

二十七マイル五分ノ一丁四十三間餘此里

數我十一里四丁幅英法三フー一ト六インチ

一フー一尺一英寸ハ我ハ分三厘

ノ單線估算ナリ尤モ複線ノ為メ溝梁橋ノ

石工及ヒ駅亭運輸器械トモ此費額明治六

年第三月工部省ニ於テ建築師長外國人ボ

イル實地検査ノ上精密ニ豫算スル所總計

洋銀百五十六萬四千五百十弗ヲ以テ目途トナス

第三

天災地異総テ非常ノ變ニ屬シ或ハ物價ノ昂低又ハ掘割中堅石ニ當ル等ノ類総テ豫定ノ金額外入費相崇候節ハ其趣ヲ以テ大藏省ヨリ會社ヘ下達シ會社ヨリ調達可致候若之節ハ落成期限ニ豫定ノ年月ヨリ延引スルモ妨ナキ事

第四

大藏省ノ下達ヲ以テ會社ヨリ募集調達スル金高ハ即政府ノ國債ニシテ其募ル所ノ株券ハ紙幣寮ニテ製造シタル者ナリ故ニ株券ヲ與ハタル其月ヨリ年七分ノ利附ヲシテ六月十二月毎年兩度ニ總計シ大藏省ヨリ會社ヘ無相違可相拂事
但利足割渡方ハ會社規則ニ委詳掲載ノ通り確守スヘシ

第五

建築落成開業ノ上ハ運輸入金ヨリ建築本

資金ノ年七分ノ利并鐵道修補諸器械ノ修繕運輸ノ入費使役ノ給料總テ其線路ニ屬スル消費ヲ引去リ全ク殘金ヲ益金ト見做シ之レヲ中分シテ其一ハ大藏省ニ收メ其一ハ會社ニ與ヘ會社ニ於テ銘々出金ノ高ニ應レ夫々配當致ス可ト事
但益金割渡方ハ會社規則ニ委詳掲載ノ通り確守スヘシ

第六

建築施行中工部省ニ於テハ總テ鐵道ニ屬

スル基本金ヲ請取ルニハ必ス大藏省ニ需メ其消費ヲ詳明ニ計算シテ之レヲ同省ニ報スベキ事

第七

會社ヨリ募集調達スル金高并ニ工部省ニ於テ建築需用ニ供スル費額ハ即政府ノ國債ナルヲ以テ大藏省ニ在リテハ其事務擔當ノ官負數名ヲ命シ其濫糜浪費ヲ防ガンガ為ノ常ニ鐵道建築ノ景況ヲ審覈シ出納會計ノ細大ヲ監督スベシ然レモ鐵道建築

工夫使役ニ於テハ之レヲ擬議ス可カラサ
ル事

第八

鐵道一部毎ニ會社ヨリノ出金総額ハ開業
廿ヶ年後ニ至リ政府ノ都合ニ因リ元金悉
皆相返候節ハ會社ニ於テ右鐵道ニ一切関
係無之事

第九

鐵道一部毎ニ開業ノ後二十四ヶ年ヨリハ
會社出金ノ内又ハ総額ナリトモ請取ント

望ハ者ニハ之ヲ償却スヘキ事

第十

政府ノ都合ニヨリ若シ右建築入費中ハ出
金致レ候節ハ其趣會社ハ相違則會社金同
様ノ取扱ヲ以テ落成開業ノ上年七分ノ利
并益金分配等總テ會社同様可取計事

第十一

建築出張ノ官吏其他雇入ニ至ル迄或ハ事
務ヲ怠リ或ハ不良ノ處為有之時ハ會社頭
取ヨリ大藏省工部省ハ告訴スルヲ得ル事

右之條件太政大臣ノ許可ヲ得テ大藏省工部
省并會社ト議定シ一同遵守スハク結約シテ
左ニ押印スルモノ也

年號月日

大藏卿大隈重信

工部卿伊藤博文

會社總頭取

三井三郎助印

同總代

三井八郎右衛門印



九
通
省